

2008年

7月12日(土)～9月14日(日)

裴世清はいせいせいせいの見た風景

— 一四〇〇年前の大和州 —

隋使裴世清の来朝から一四〇〇年、

裴世清らは、どのように飛鳥へ向かったのか

文化財講演会

7月19日(土) 13:00～16:00

積山 洋氏 (大阪歴史博物館)

『1400年前の難波津』

阪田 育功氏 (大阪府立狭山池博物館)

『古大和川の流路変遷』

7月26日(土) 13:00～16:00

平田 政彦氏 (斑鳩町教育委員会)

『法隆寺論争は決着したか?』

林部 均氏 (奈良県立橿原考古学研究所)

『裴世清の見た倭国の王宮』

8月30日(土) 13:30～15:00

和田 萃氏 (京都教育大学名誉教授)

『裴世清の来日-難波津から飛鳥へ-』

市民歴史大学

『大和川と水運』

8月9日(土) 13:30～15:00

亀田 修一氏 (岡山理科大学教授)

『朝鮮半島から河内へ』

9月6日(土) 13:30～15:00

松原 弘宣氏 (愛媛大学教授)

『古代の瀬戸内海交通』

いずれも定員90名

無料・申し込み不要

柏原市立歴史資料館

開館時間 9:30～16:30

休館日 月曜日

入館料 無料

〒582-0015 大阪府柏原市高井田1598-1

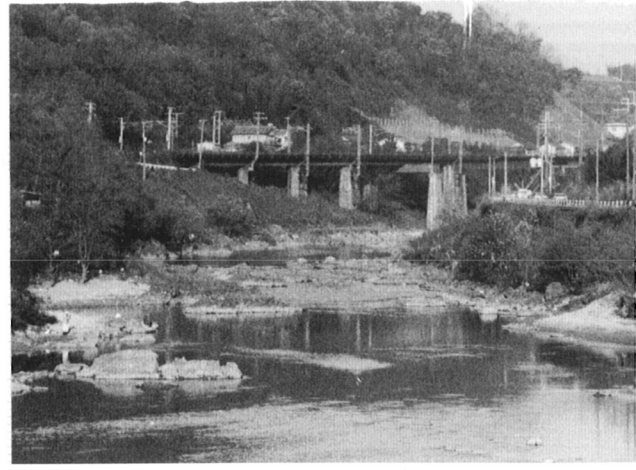
交通 JR大和路線高井田駅から徒歩5分

近鉄大阪線河内国分駅から徒歩15分

電話 072-976-3430

裴世清の見た風景

推古15年(607)、小野妹子らが中国の隋に派遣されました。彼らを遣隋使といいます。そして翌年、小野妹子らの帰国とともに隋から正式な使者がやってきました。その代表者が裴世清です。筑紫(今の福岡県)から難波津(大阪城付近)にやってきた裴世清らは、そこから大和川をさかのぼって飛鳥へ向かったようです。柏原付近にやってきた彼らは、たくさんの人々が住み、山には古墳が累々とならぶ風景を見たに違いありません。そして、大和川最大の難所である亀の瀬に至った一行は、船から降りて陸路で大和に入ったと思われます。再び船上の人となった彼らは、斑鳩宮や建築中の斑鳩寺を眺めたことでしょう。そして、海石榴市で陸にあがり、飛鳥の小墾田宮へと向かったようです。



大和川の難所・亀の瀬

遣隋使と裴世清

遣隋使は推古8年(600)から推古22年にかけて、3~6回派遣されたようです。そして、進んだ政治・文化・宗教などをわが国にもたらし、その後の発展に大きな役割を果たしました。当時のわが国にとって、隋から使者が来るということは大変なことだったと思います。どのようにもてなせばいいのか、混乱したことでしょう。そのためか、6月15日に難波津に着いた一行が飛鳥に入るのは8月3日のことでした。

難波津では30艘の飾船で出迎え、新しく建築した新館で彼らをもてなしました。海石榴市では、75匹の飾馬で出迎えました。それでも、裴世清らから見ると、不満の残るものだったのではないのでしょうか。そして、綱で引かれた船に乗って大和川をさかのぼり、しかも途中で歩いて山越えしなければならない事実に愕然としたのではないのでしょうか。今年で裴世清らが訪れてから1,400年になります。裴世清らが見た風景をみなさんと想像してみたいと思います。

展示資料

展示資料は、難波宮下層遺跡(大阪市)、美園遺跡・佐堂遺跡(八尾市)、大泉遺跡・船橋遺跡・高井田遺跡・平尾山古墳群(柏原市)、法隆寺若草伽藍(斑鳩町)、雷丘東方遺跡(明日香村)のそれぞれの遺跡からの出土資料です。裴世清らが訪れた時代を物語る貴重な資料をお楽しみください。

裴世清のたどったルート

